

## 連携し事業費確保 道アスファルト合材協会

北海道アスファルト合材協会（玉川裕一会長）は、札幌市の京王プラザホテル札幌で2026年度通常総会を開いた。役員改選では、玉川会長を再任した。26年度は「アスファルト合材製造に関する技術の向上、品質の改良、能率の増進、需要の普及と拡張」など協会の目的を達成するため、各種事業活動を展開していく。

玉川会長は、25年度の合材出荷トン数が1月末時点（速報値）で189万トとなり、過去最低となる見込みを示すとともに、事業費

の確保も厳しい状況にあると説明した。

また、「道内各地のプラント96基のうち、50%以上が30年以上を経過している。アフターパーツの供給がままならなくなる可能性もあることも、プラントメーカーから聞いている」と危機感を募らせた。

一方、「広域分散型社会を形成する北海道で、道路は道民の暮らし、経済活動に必要不可欠だ。事業費の確保のため、北海道舗装事業協会、日本道路建設業協会北海道支部の3協会が連携し、努力していきたい」と力を込めた（写真）

（2・25）

